

## 関電の使用済燃料プール あと4～6年で満杯

# 上関町の中間貯蔵、原発敷地内の乾式貯蔵に反対し 関電の原発を運転停止に追い込もう

### 1. 12月末までに中間貯蔵の計画地点を確定できないのに、老朽原発停止の約束を葬る

関西電力は10月10日に「使用済燃料対策ロードマップ」※(以下「ロードマップ」)を公表し、同時に、原発敷地内での使用済燃料の乾式貯蔵施設を検討すると表明した。同日に福井県議会全員協議会でこれを説明した。資源エネルギー庁は、関電の「ロードマップ」を支持し、六ヶ所再処理工場の完成に向け最大限努力すると述べた。全員協議会では県議から、乾式貯蔵施設の「貯蔵期間がはっきりしていない」「永久に据え置かれるのではないか」「県民の意見を聞くべき」等々の批判が出た。しかし、わずか3日後の13日、福井県知事は関電社長、経産大臣と面会し、乾式貯蔵を含む「ロードマップ」を、「一定の前進がある」「覚悟が示された」等と評価し、県民の声を聴くこともなく了承した。(※ [https://www.kepco.co.jp/corporate/pr/2023/pdf/20231010\\_1j.pdf](https://www.kepco.co.jp/corporate/pr/2023/pdf/20231010_1j.pdf))

関電と知事は、「12月末までに中間貯蔵施設の候補地を確定できなければ、老朽原発3基(美浜1、高浜1・2)を止める」という約束を、いとも簡単に葬ってしまった。原発の運転継続を最優先にした約束破りを断じて許すことはできない。

### 2. 関電の「ロードマップ」に現実味はない

#### 再処理工場の完成、2030年頃の中間貯蔵の操業は絵にかいた餅

関電は「ロードマップ」について、「2030年頃の中間貯蔵施設の操業に向けて、使用済燃料対策推進計画を補完する指針」と位置付けている。その「ロードマップ」の柱は、以下の3点からなっている(次頁図参照)。①六ヶ所再処理工場への搬出や③中間貯蔵の2030年頃の操業開始は全く目途はなく、②フランスへの搬出もわずかな量にすぎず、現実味のない使用済燃料対策だ。

①六ヶ所再処理工場への搬出：関電は、六ヶ所再処理工場が2024年度上期に竣工し、2025年度から再処理開始。再処理工場のプール空き(70トン)ができることで、2026年度から使用済燃料

#### \* 国相手の大飯原発運転停止を求める裁判(大阪高裁)第4回口頭弁論

11月20日(月)14:30 大阪地裁202号法廷/ 終了後に報告・交流会 弁護士会館920号  
先着順です。14時頃には、手荷物検査を受けて、法廷に入ってください。

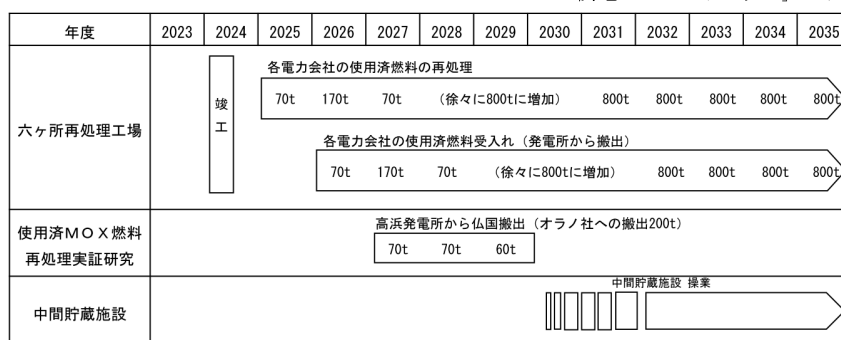
#### 目次

▼中間貯蔵にも乾式貯蔵にも反対しよう・・・p1 ▼ひっ迫する関電の使用済燃料プール・・・p4 ▼署名に取り組んでいます(上関中間貯蔵反対)・・・p5 ▼防災訓練 監視行動の報告・・・p6 ▼(投稿)避難者住宅裁判・・・p9 ▼高浜原発で7回目のSG細管損傷・・・p10 ▼カラーリーフ紹介(上関中間貯蔵反対)・・・p12

料を搬出できるようになる、と説明している。

関電の「ロードマップ」より

しかし、経産大臣が「覚悟」を示しても、現実味はない。六ヶ所再処理工場は、26年前の1997年に完成予定だったが、これまでに26回も完成を延期している。1993年4月に着工し、既に30年



が過ぎても完成していない。ボーリング調査の追加等で完成はさらに遅れる。

仮に2024年度上期に竣工したとしても、六ヶ所再処理工場の寿命は40年で、2064年には閉鎖となる。実現性のない「2030年頃の間蔵」で約50年保管すれば、使用済燃料のその先の行き場はなく、中間貯蔵が核のゴミ捨て場となる。

②フランスへの200トンの搬出：高浜原発から使用済MOX燃料を含む200トンをフランスに搬出する。使用済MOX燃料の再処理実証研究として2027年度から2029年度に3回に分けてフランスのオラノ社に搬出する計画だ。

200トンは、現在福井県内で貯蔵されている使用済燃料の5%分にすぎず、搬出効果は限られている。関電は「実証試験の進捗・状況に応じ、仏国への搬出の積み増しを検討」するとしている。しかし、使用済MOX燃料の再処理そのものが困難であり、未だ「実証試験」の段階でしかなく、「積み増し」など簡単にできるものではない。200トンの内、使用済MOX燃料はわずか10トンでしかない。このことも使用済MOXの再処理の困難性を裏付けているのではないか。

③中間貯蔵施設の2030年頃の操業開始：中間貯蔵施設の他地点を確保し、2030年頃に操業を開始する計画を示している。この「他地点」が何を意味しているのかは不明だが、中国電力と共同で使用することを狙っている上関町の中間貯蔵施設は、完成までには15年程かかると中国電力は述べている。8月から調査が始まったばかりで、山口県内を中心に強い反対運動が続いている。7年後の「2030年頃の間蔵の操業」は絵にかいた餅でしかない。

関電は、中間貯蔵が操業する2030年頃までの間は、六ヶ所再処理工場とフランスへの搬出で使用済燃料の貯蔵量増加を抑制するという。結局、六ヶ所再処理工場への搬出頼みだが、先に述べたように現実味がないことは明らかだ。

### 3. 原発敷地内に乾式貯蔵施設を検討。現地在核のゴミ捨て場になる危険

上記の「ロードマップ」の図には入っていないが、関電は今回初めて「乾式貯蔵施設の設置を検討」として、10月10日の説明資料で明示した。関電の計画では、乾式貯蔵から中間貯蔵に搬出することになっている。乾式貯蔵設置の理由として「中間貯蔵施設へのより円滑な搬出」をあげている。しかし、いつ中間貯蔵施設が実現するのも分からない内から、「より円滑な搬出」とは、子どもだましに過ぎない。

関電は、乾式貯蔵施設に使用済燃料を移送しても、それで空いた貯蔵プールには使用済燃料は入れず、「原則として貯蔵量を増加させない」としている。福井県知事はこれを一定評価するとしているが、関電はあっさり「例外」を認めている。関電のいう「例外」とは、「国内外の情勢変化、自然災害など、自社の事由によらない事象で搬出が滞り、エネルギーの安定供給に貢献できなくなる可能性がある場合」という。この場合には、空いた貯蔵プールのスペースを使うとして

いる。そのため、いつでも貯蔵量を増やすことができる。

「エネルギーの安定供給に貢献」という錦の御旗のもとでは、「例外」は拡大解釈される可能性がある。そうして、原発サイトが核のゴミ捨て場になる危険は誰の目にも明らかだ。

以上のように関電の計画は、六ヶ所再処理工場等の実現性がない下で、原発敷地内での乾式貯蔵施設にたより、「着実に発電所が継続して運転できる」ことを狙ったものだ。

#### 4. 使用済燃料プールの満杯が目前に迫る関電の原発

使用済燃料プールが満杯になるまでの残り年数  
関電資料より(燃料集集体数 23.10.25)

原発	残り年数
美浜3号	5.6
大飯 (3・4号合計)	4.9
高浜 (1~4号合計)	4.0

これらの背景には、関電原発の使用済燃料プールの満杯が目前に迫っていることがある。今後 4~6 年の内に原発プールは満杯となり、定期検査で燃料交換ができなくなり、原発は運転停止に追い込まれる。そのような状況が、現実味をおびて迫っているのだ。最もひっ迫している高浜原発では 1~4 号のプールが共用されている。高浜 3 号の定検が 9 月から始まり、この定検で発生する使用済燃料を加えれば、プールの空き年数は 4 年を切り、2027 年にはプールは満杯になる (4 頁)。

これを何とか回避しようと、原発敷地内での乾式貯蔵を狙っている。他方で、中間貯蔵や乾式貯蔵を阻止できれば、関電の原発に先はない。そのような状況に現在はある。

#### 5. 老朽原発再稼働の中で、簡素な防災訓練

老朽原発の再稼働によって、事故の危険は高まり避難が現実味を帯びてくる。しかし、10 月 21 日の福井県主催の防災訓練・住民避難訓練は、国のマニュアル通りの極めて簡単な訓練だった。検査結果を住民に伝えることもしない。スクリーニング会場で県の職員に尋ねると、訓練の設営は前日から職員と業者でやっているとのこと。これでは訓練にならない。

検査の基準は 40,000cpm (GM 式サーベイメータで 1 分間の放射線計測数)。福島原発事故前は、小児甲状腺被ばく量 100mSv に相当する 13,000cpm が基準だったが、規制委員会はこれを約 3 倍に引き上げ、さらに甲状腺被ばくのための検査から、体表面の汚染検査にすり替えてしまった。福島原発事故の教訓を踏みにじるものだ (6 頁)。

佐賀、北海道、新潟でも防災訓練が行われた。11 月には京都府で訓練が予定されている。情報を交換しながら、問題点を広く知らせ、自治体や国に申入れ等を行っていこう。

#### 6. 上関町の間接貯蔵にも、原発敷地内の乾式貯蔵にも反対し、原発の運転を止めていこう

関電は、老朽原発 3 基を含む 7 基の原発の運転を強行し、使用済燃料を生み出し続けている。再稼働を強行しながら、中間貯蔵や乾式貯蔵という核のゴミ捨て場探しは許せない。

六ヶ所再処理工場の事実上の破綻は、国の核燃料サイクルが行き詰っていることを示している。関電、国、福井県知事は、六ヶ所再処理工場や 2030 年頃の間接貯蔵という見果てぬ夢を口にして、乾式貯蔵の検討までも狙っている。県民や周辺住民を愚弄し、原発推進にしがみついている。

原発	運転状況
美浜3	停止中 10/25から定検
高浜1	運転中 7/28起動
高浜2	運転中 9/15起動
高浜3	停止中 9/18から定検
高浜4	運転中 3/24起動
大飯3	運転中 昨年12/16起動
大飯4	原子炉起動 10/25

上関町の間接貯蔵にも、原発敷地内での乾式貯蔵にも反対し、原発の運転を止めていこう。関西でも上関町の間接貯蔵に反対する署名が進められている (5 頁)。全国で署名を広げよう。防災訓練の問題も含め、原発の停止を求め、自治体申入れ等を進めよう。